

# 平成26年度 学校自己評価システムシート ( 県立岩槻高等学校 )

目指す学校像	確かな学力・規律ある生活態度・国際感覚を身につけた生徒を育成し、一人一人の進路希望を実現する、地域に愛される学校
--------	--

重点目標	1 基礎・基本の定着 (学力の向上を目指して) 2 進路指導の充実 (夢の実現を目指して) 3 生徒指導の充実と人権教育の推進 (豊かな心の育成を目指して) 4 国際理解教育の推進 (国際社会で活躍する生徒の育成を目指して) 5 保護者・地域との連携 (信頼される学校を目指して)
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	3名
	事務局 (教職員)	9名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目 (年度達成目標を意味する。) は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					年度評価 ( 1 月 2 2 日 現在 )	
年度目標					評価項目の達成状況	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	達成度	次年度への課題と改善策
1	全職員の継続した指導のもと、朝学習の取組やチャイム着席など定着している。 ・生徒は、学習に対して受動的な姿勢が強い。また、授業内容の工夫・改善に向けての取組を継続していく必要がある。	授業改善と主体的に学習する生徒を育成する。	①公開授業を年3回以上実施する。また、教員相互の授業公開週間を充実させる。 ②生徒による授業アンケートを実施する。 ③チャイム着席を、教科担当者が継続的に指導する。また、朝学習の取組を学年が主体となり継続していく。 ④定期的な週末課題や小テストを実施。 ⑤実力テストや学習状況リサーチの活用	①公開授業や、教員相互による授業公開が予定とおりに実施できたか。 ②アンケート結果を活用して、教科内研修を実施し、授業に反映できたか。 ③チャイムtoチャイムが年間通して継続できたか。また、朝学習に全員が取組めたか。 ④成績不振者前年比減少したか ⑤教科内で分析活用できたか。	B	教員個々授業改善に努めた。生徒の主体的学習確立の為に更に工夫する必要がある。 ①②授業公開は5月・6月・10月の3回実施。保護者や生徒のアンケート結果をもとに教科研修を行った。6月・10月を校内での授業見学期間として教員間で互いに授業見学できるようにした。 ③④チャイム着席や朝学習は定着し、特に朝学習は充実している。 ⑤スタサポや学習リサーチのデータを使い学年や教科で研修した。
2	高校3年間系統立てた進路行事は、生徒個々に応じた進路指導に生かされている。 ・進路指導部を中心とした教員間の連携を充実させる必要がある。	生徒自ら進路を切り拓く力を育成し、教員間の指導連携と情報共有を果たす。	①職業調べや学部学科研究を、特別活動の時間を使い生徒個々に調べさせる。 ②各学期に面談を実施する。 ③進路講演会や模擬授業の実施。 ④スケジューリング指導や進路ガイダンスの実施。	①年度末、具体的な進路目標を持つ生徒が、年度当初と比べて増えたか。 ②③面談の内容を学年及び進路指導部内で共有できたか。 ④学習時間の増加など学習習慣に反映できたか。	B	教員間の指導連携と情報共有は計画通り図られた。生徒自ら進路を切り拓く力の育成は更に工夫が必要がある。 ②③6月に全校一斉実施。2・3学期は昼休みや放課後を利用して、年間1人3~4回実施。全体での共有はできなかった。 ①④学年の進路プログラムに沿って実施。学習時間は増加していない。
3	生徒指導部が中心となり、全学年統一した指導ができています。 ・基本的な生活習慣や交通マナーを継続的に指導していく必要がある。また、多様な経験を持つ生徒に、関係分掌・学年が情報を共有し組織的に対応していく体制が必要である。	はじめある生活規律を身につけさせる。また、心に悩みを持つ生徒に対してのフォロー体制を作る。	①生活規律や身だしなみなど、全教員による統一した指導を実施する。 ②年間継続的な登校指導と、テーマを決めた重点的な生徒指導を実施する。 ③特別支援教育委員会が中心となり、全職員が情報を共有できる体制をつくりだす。 ④人権教育講演会と職員研修会の実施。	①②遅刻者数の減少、挨拶マナー意識の向上、集団行動においての5分前行動など、学校生活全般を通して、1年間の生徒の変化をみる。 ③情報共有ができ、支援の必要な生徒に共通な指導ができたか。 ④計画どおり実施できたか。	A	遅刻指導を継続し、自ら挨拶できる生徒を増やし、自転車運ルールを徹底させる ・登校指導と下校指導を通して生徒への声掛けを実施していく。 人権教育講演会と職員研修会の更なる充実を図る。 ・生徒、職員にとって必要性の高い講演会、研修会を実施する。
4	国際交流部を中心に、国際文化科の特徴を生かした各種行事を企画運営し成果を収めている。 ・国際理解教育を「科」の取組から学校全体へと発展させる必要がある。	異文化体験や交流活動を促進し、学校全体で取組む。また、海外授業体験学習実施に向けて学年と連携して取組む。	①国際交流部が中心となり、講演会や各種行事を企画し、学校全体で運営する。 ②イングリッシュサマーキャンプや他国との交流会に積極的に参加させる。	①学校全体としての取組ができたか。 ①②異国文化への興味関心を持つ生徒が増したか。また、スピーチコンテストの参加や多くの英検受験に繋がったか。	A	計画どおり実施。海外授業体験学習は次年度復活実施予定。 ①②国際交流部が支援する体制が確立し、各学期一回の実施。普通科を含めた学年の行事も実施、スピーチコンテスト2名参加 (昨年2名) 英検受験者48名 (昨年54名)
5	行事を中心に多くの保護者が来校している。また、地域の行事に積極的に参加している。 ・さらなる情報発信と連携を通して、期待に応えていく必要がある。	ホームページ (HP) 等を活用した情報発信と、保護者・地域との連携内容の工夫と充実を図る。	①HPの更新を定期的実施する。 ②近隣の中学校や教育機関に積極的に出て向いて情報提供をする。 ③生徒が、地域の行事・ボランティア活動・小学校に出向き交流する。	①定期的な更新ができたか。 ②昨年比以上の訪問ができたか。 ③年間6回以上の交流ができたか。	A	情報発信、保護者・地域連携が充実できた。 ①校内情報推進委員会を中心に組織的にHPの定期的更新を実施した。 ②教職員による年間2回の中学校訪問の実施。近隣中学校4校と外部教育機関で3回学校説明会を実施した。 ③岩槻地区フェスティバル参加・小高交流事業等・生徒の地域の行事・ボランティア活動・小学校での活動等交流年間12回

学校関係者評価	実施日 平成 27年1月28日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒、保護者アンケートの分析を活かし、授業改善に努めている。</li> <li>・引き続き、週末課題、教科宿題小テストにより家庭学習時間の充実を図る。</li> <li>・生徒の学習意欲喚起のために各教科で更に創意工夫をしてほしい。</li> <li>・生徒のコミュニケーション能力を育成するための授業を工夫してほしい。</li> <li>・生徒の自主性を、より高めることが今後の岩槻高校の課題である。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒個々に即したきめの細やかな進路指導を展開している。</li> <li>・朝学習の継続と充実を図る。</li> <li>・将来就きたい職業等の夢を持たせ、更に意欲的に学習する意欲を喚起する。</li> <li>・部活動と学習の両立の徹底を図る。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導が行き届き、落ち着いた学校になっている。</li> <li>・生徒が自ら進んで、挨拶ができるようにしてほしい。</li> <li>・中学校との情報交換を更に密にして、生徒の指導に当たる。</li> <li>・人権教育の講演会、研修会は、工夫され適切なテーマで実施されている。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際教育理解の重要性を踏まえ、学校全体で更に充実を図る。</li> <li>・「グローバル語り部プログラム」の実施は、国際理解教育にとってかなり効果的であった。</li> <li>・海外授業体験学習実施に向けて更に工夫してほしい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩槻高校は、地域にとってありがたい存在であり、今年度も岩槻地区フェスティバルへの参加、防災訓練等、地域との結びつきが強まった。</li> <li>・学校説明会・中学校訪問等により志願者増になった。</li> <li>・中学生の進路選択に有効な説明になるよう工夫してほしい。</li> <li>・「PTA便り」等で保護者の日常生活・仕事・生き方等について思うことを発信する機会を作ってほしい。</li> <li>・引き続きHPの充実にも努めてほしい。</li> </ul>